

こうしゅうどうちゅう
甲州道中



▲^{しないうらたかおまち}市内裏高尾町 ^{こまぎのしゆく}駒木野宿の碑

^{しな}市内の^{ちゅうおう}中央を^{とうざい}東西に^{はし}走る^{おお}大きな^{みち}道、^{こくどう}国道20号(甲州街道)。江戸時代には、甲州道中
と呼ばれていました。テレビや映画の時代劇で見るような道中シーンが、ここ八王子でも
^み見られていたのです。わらじをはき、^{かさ}笠をかぶり、^{たび}旅かっぱをはおった^{たびびと}旅人たちが^{ある}歩いてい
ました。市内には、わずかですが、^{きゅうどう}旧道も残っています。

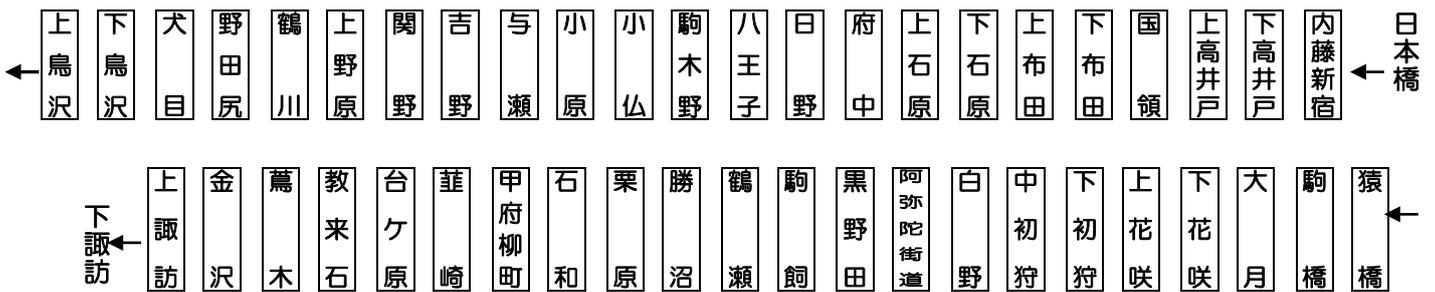
さあ、^{こうしゅうかいどう}甲州街道について^{しら}調べてみましょう。

江戸の五街道

天下をとった徳川家康が、慶長8年(1603年)江戸に幕府を開くと、日本橋を中心にして道路と宿駅(街道の便利なところ)にあって、宿や、人や荷物を運ぶための馬・かごなどの乗り物を用意してあったところ)の整備が進められました。道路の中でも、5つの主要道路は、江戸の五街道と呼ばれました。江戸と京都をつなぐ東海道と中山道、江戸と日光をつなぐ日光道中、宇都宮(栃木県)で日光道中からわかれ白河(福島県)までいく奥州道中、そして、甲州道中です。

甲州道中

甲州道中は、江戸の日本橋を出発点に、八王子、甲府を経て中山道と合流する下諏訪まで、道程は約53里(208.5km)、宿数45の街道です。最初は「甲州海道」でしたが、正徳6年(1716年)海端の道ではないとの理由で、甲州道中となりました。明治時代になると道路の法令により国道に指定され、後に甲州街道と呼ばれるようになりました。



武田家の領地でもあった甲州は金の産地でもあり、江戸のうしろを守る大切な所とされ、幕府が直接治める天領となっていました。また、幕府は甲州街道を軍用道路として重要視していたという見方もあり、いざというときには、八王子千人同心を引きつれて甲府城にたてこもり再起を図ろうとしていたようです。

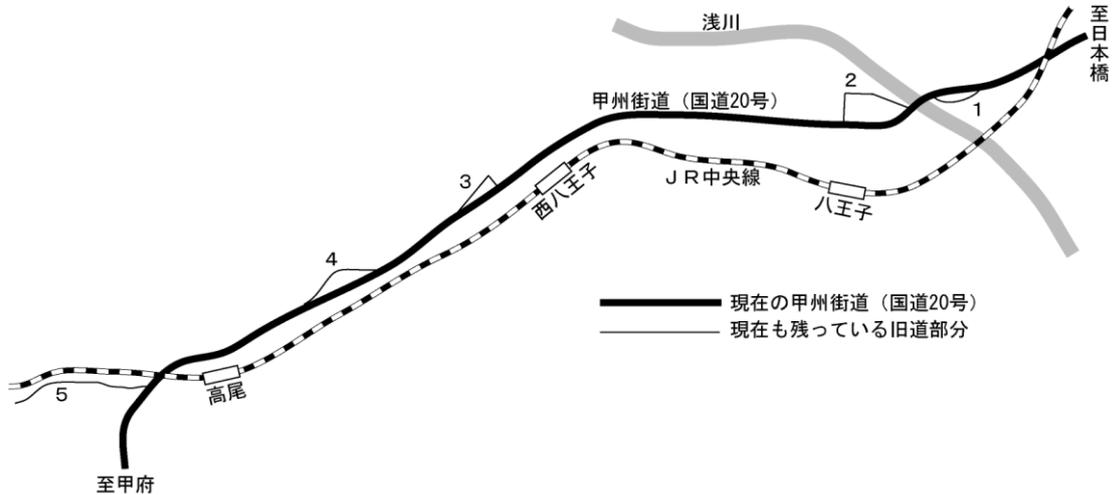
甲州道中を通行した人々

参勤交代のために通行した大名は、高島藩、高遠藩、飯田藩の3藩でした。公用通行では、他には、甲府勤番と八王子千人同心がよく利用していたようです。茶壺道中といって、宇治(京都府)の茶を江戸城に運ぶ行列も見られました。

商品経済が発展してくると、商品の運送や庶民の旅に使われるようになり、富士登山の富士講、身延参りの身延講の人たちや、手紙などを運ぶ飛脚などの姿が見られました。残された道中日記によると江戸時代の人々は、1日にほぼ10里(約40km)を歩いていて、1日目のとまり宿として、八王子宿が利用されていることが多かったようです。江戸から下諏訪まで約5~6日間の旅でした。

市内に残る旧道

現在の甲州街道(国道20号)は整備され、道も広げられていますが、市内にはわずかに江戸時代の道筋(旧道)が残っています。昔の旅人になったつもりで歩いてみませんか。



1. 大和田町 甲州街道の大和田町の坂を下りてまもなく斜め左へわかれる道。中程に馬頭観音(馬の頭をした仏像。馬の病気や安全を祈る)が残っています。▼一里塚跡

2. 新町 大和田橋南詰交差点で国道20号とわかれ北大通り沿いに約350メートル進み、市立五中交差点を斜め左に進む道。途中の竹の花公園には、「一里塚跡」という石碑がたっています。一里塚というのは、江戸の日本橋を起点として一里(約4km)ごとに作られた旅人たちの道しるべのことです。一里塚は9m四方もある大きなもので、榎などが植えられました。この木陰で旅人たちは、休息をとっていたようです。



3. 並木町 長房団地入口の信号を右折し、約50m先で交差する左に入る道。

4. 東浅川町 多摩御陵参道入口交差点から200m程西に進み、国道20号から右手にわかれる道。

5. 裏高尾町 JR中央線のガードをくぐり西浅川交差点で右折し、駒木野のバス停から小仏峠頂上に向かう道。関所もここにおかれていました。関所では、役人が通行する人や荷物の検査をしました。特に、「入り鉄砲に出女」といって、江戸の町に鉄砲が入ること、人質である奥方たちが江戸から出ることを、厳しくとりしまりました。

旅人は、丸石に関所手形を出して乗せ、手前の平石に手をつけて頭を下げました。(次のページに写真があります。)

こうしゅうかいどう なみき
甲州街道イチヨウ並木

おひわけ たかおえきたぐち やく りょうがわ つづ やく ほん なみき
追分から高尾駅北口までの約4.2kmの両側に続く、約760本のイチヨウ並木。

しょうわ ねん たまごりょう ぞうえいきねん う
昭和2年に多摩御陵の造宮記念に植えられました。

にほんさんだいなみき はちおうじ
日本三大並木のひとつといわれ、八王子のシンボルになっています。イチヨウは、

しょうわ ねん (1976ねん)に「市の木」に指定されました。

あき こがねいろ そ まつ おこな
秋には黄金色に染まり、いちよう祭りが行われています。



しせきこぼとげきあと
史跡小仏関跡 ▶

てがたいし よ ばれる まるいしと
手形石と呼ばれる丸石と

てつけいし よ ひらいし
手付石と呼ばれる平石

しら 調べてみましょう

ひとつのテーマについて調べる時、何冊かの本を調べることは、とても大切なことです。次にあげる参考文献は、図書館にある本の中で、小・中学生のみなさんにもわかりやすいものです。自分で調べ、まとめてみましょう。市内のどの図書館に所蔵しているかは館内OPACで検索、または職員へおたずねください。

※☆印のついているものは、特に小学生におすすめのものです。

こうしゅうどうちゅう どうきょうとくきょういくちょうしやうがいがくしゅう ぶ ぶん か へんしゅう ねん
『甲州道中』 東京都教育庁生涯学習部文化課／編集 1998年

きゅうどう ようす くわ し
旧道の様子を詳しく知るのにおすすめ。

こうしゅうどうちゅう たび はちおうじし きやうどしりやうかん へんしゅう ねん
『甲州道中を旅する』 八王子市郷土資料館／編集 1992年

ず え しやしん おお しりやう むかし たび ようす
図や絵や写真など多くの資料がのっている。昔の旅の様子がよくわかる。

☆きやうど き はちおうじし せいかつぶんか ぶ こうほうか へん ねん
『郷土みてある記』 八王子市生活文化部広報課／編 1995年

しょうがっこう せんせい はちおうじ れきし かんけい ふか じんぶつ どうしよくぶつ ことから しょうがくせい
小学校の先生が、八王子の歴史や関係の深い人物、動植物や事柄を小学生

にもわかりやすく解説したもの。

こんじゃくさんどうちゅうひとりあんない いまいきんご ちよ ねん
『今昔三道中 独案内』 今井金吾／著 2004年

げんざい ち ず じやう きやうどう あか ひやうじ みちすじ
現在の地図上に旧道が赤く表示されていて、道筋がわかりやすい。

こうしゅうかいどうななじゅうにけい こうしゅうかいどうななじゅうにけい がしゅうかんこうかい へん ねん
『甲州街道七十二景』 「甲州街道七十二景」画集刊行会／編 1999年

うつく え かいせつ こうせい
美しい絵と解説で構成されている。

かいどう たび じどうしょ
<街道と旅についてかかれた児童書>

☆けんべつれきし やまなしけん やまなしけんしゃかい かけんきやうかい へん ねん
『県別歴史シリーズ19 山梨県』 山梨県社会科学研究会／編 1990年

☆わたしたちの日本10 ふるさとの しょうぎやう こうつう あさいとくいち ちよ ねん
『わたしたちの日本10 ふるさとの商業と交通』 浅井得一／著 1985年

☆みち なた にしやまたえ ぶん ねん
『道は語る』 西山妙／文 1976年

☆みち はったつ かいどう たび かんざきのりたけ ちよ ねん
『道の発達とわたしたちのくらし4 街道と旅』 神崎宣武／著 1988年

へんしゅう はっこう はちおうじし ちゅうおうとしやかん
編集・発行 八王子市中央図書館

へいせい ねん ねん がつ
平成23年(2011年)6月

れいわ ねん ねん がつ かいてい
令和4年(2022年)8月 改訂